

西南女学院中学校・高等学校の中期計画（2022-2026）

2022年度 検証

計 画	2022年度状況〔1年目〕	課 題
<p>〔I〕本校の「教育」</p> <p>①人間教育 聖書に基づく人間観、社会観、人生観、生命観、倫理観等を教え育む教育を行う。</p> <p>②キャリア教育 「なりたい私」を育てる教育</p>	<p>(i) 週1回の全体礼拝、ミッションマンス、ミッションウィーク、毎日の始礼・終礼のクラス礼拝を行った。</p> <p>(ii) カリキュラムのもと聖書について歴史や内容の学習をした。</p> <p>(iii) 教会の主日礼拝への出席を奨励し、全校生徒の3割が皆勤で出席した。</p> <p>(iv) 人権教育とキリスト教教育を融合させるため、人権教育委員長を宗教部所属とし、人権教育をキリスト教教育の一環として実施した。</p> <p>(v) キリスト教教育を全教員で推進するために「キリスト教教育オリエンテーション」を継続実施し、教会の主日礼拝出席を奨励した。</p> <p>(vi) キリスト教教育の使命の一つである「平和」について考える機会として、教員と生徒が参加する「平和教育特別礼拝」を実施した。</p> <p>(i) 学習支援サービス専門企業のキャリア教育プログラムを導入し、生徒自身が考え方を組み立て表現する力の醸成に努めた。</p>	<p>2022年度の後半より対面での全体礼拝を2年6か月ぶりに再開した。対面のメリットを十分に活かした礼拝の在り方を検証したい。</p> <p>主日礼拝への出席もコロナ渦で不安定な状況であったが、今後、コロナ以前の出席状況へ改善される事を期待したい。</p> <p>聖書の授業については、世界の社会情勢が戦争へ向ったため、「平和教育特別礼拝」で伝えられる内容とリンクさせながら、平和への意識を高める教育の充実を図った。今後は、人権教育と平和教育のより密な連動性を持つ対応が課題である。</p> <p>全教員への「キリスト教教育オリエンテーション」は学事の中でも定着してきた。今後、本校の教員が実践する人間教育の礎となることを期待したい。</p> <p>中高生にとって、「なりたい私」を実現するためには、幅広い知識と深い探求心と養う必要がある。本校では「なりたい私」を実現する通過点として大学進学を推奨している。</p>

計 画	2022 年度状況〔1 年目〕	課 題
<p>③AIE（国際化教育）・英語教育 「使える英語力」の育成</p>	<p>(ii) 大学進学を具体的にイメージできるよう大学訪問や説明会出席を推奨した。</p> <p>(iii) 大学で学ぶ学問を探求する機会として、本校主催の大学入試説明会を実施した。</p> <p>(iv) 大学の出前授業を受講する機会を増やした。</p> <p>(v) 併設大学との高大連携授業を実施した。</p> <p>(vi) 生徒自身が「なりたい私」をイメージする一助として、北九州ゆめみらいワークなど外部のキャリア教育への参加を奨励した。</p> <p>(vii) 卒業生（社会人、第一志望進路合格者）から講話を受ける機会を設けた。</p> <p>生徒の学習状況を細かく把握し、総合学力の視点から指導を行い、早期から受験意識の高揚を図った。</p> <p>○本校独自の英語教育（SSH(Sound Spelling Harmony)、英語イメージ教育、語学研修旅行など）を6年間連続して実施した。</p> <p>○国際感覚醸成のため、韓国姉妹校連携、外部講師による「国際」をテーマにした講演会、積極的な留学生の受け入れを行った。</p>	<p>「なりたい私」を実現するために各学年の教育活動を連動させ、時代や制度の変化に対応するために、「社会のニード」や「仕事」、「大学」の特徴、「学部・学科・コース」の教育活動を理解し、生徒にとって有益なアドバイスを提供する。</p> <p>コロナ以前の教育内容を確認し、コロナで実践した教育内容と比較検証する。</p> <p>コロナ渦で制約を受けた教育内容によりたメリットとデメリットを把握して、徐々に再開される海外研修や外国人講師、留学生との交流がコロナ以前よりも充実した内容へ向かうようにアップデートしていく。</p>

計 画	2022 年度状況〔1 年目〕	課 題
<p>④進路実現 「なりたい私」になるための教育と指導体制</p> <p>⑤読解力育成 文章を読む・聞く・書く能力の醸成</p> <p>⑥ICT を用いたアクティブラーニング 「学びの共同体」の活動の導入・推進</p> <p>⑦教員教科指導・指導方法の研修</p> <p>〔Ⅱ〕地域から信頼される学校づくり</p>	<p>(i) 教科横断型授業を実施し統合学力教育を実施した。</p> <p>(ii) 進路実現に向けて「進路学力検討委員会」を設置した。</p> <p>○新聞のコラムを利用した学習を行った。</p> <p>○慶應義塾大学 SFC 研究所の教育プログラム「論理コミュニケーション」を使用した。</p> <p>○NIE「いっしょに読もう新聞コンクール」へ積極的に参加した。</p> <p>○2023 年度 Wi-Fi 導入を計画し、新たな学習形態を検討した。</p> <p>○入試改革をはじめとする社会の変化に応じた指導体制を研究した。</p> <p>○進路保証、人格教育、指導力の充実、安全・安心な教育環境、開かれた学校、それぞれの観点で検討・評価を行った。</p>	<p>毎年、変化している大学の情報（入試制度、入試傾向等）の理解と検証能力の向上 進学したい、させたい大学の学習を知り受験の制度、仕組みを理解・分析する組織づくり「進路学力検討委員会」の更なる充実を図る。</p> <p>継続的に読解力向上への取り組み「エナジード」から「論理コミュニケーション」への連動と成果の確認</p> <p>Wi-Fi 環境が整ってからの活用と具体的活用法の提示 （「生徒タブレット」の導入と活用）</p>

計 画	2022 年度状況〔1 年目〕	課 題
<p>〔Ⅲ〕 生徒募集戦略</p>	<p>○本校の PR ポイントを明確にした広報活動を実施した。</p> <p>(i) 校内 PR イベントの内容を見直しながら積極的に実施した。(オープン・スクール再構築、クリスマスカルチャーシェア開催、オンラインオープン・スクール実施、入試結果報告会の再検討と入試対策講座の開催、塾対象説明会)</p> <p>(ii) 広報ツールのブラッシュアップを検討した。(学校、案内、入試問題集、スクールガイド)</p> <p>(iii) 効果的な校外情宣や資料配布の方策を検討しながら実施した。</p> <p>(iv) アドミッション・オフィサーの助言を受けながら塾対策、学校訪問対策を強化した。</p> <p>(v) 小学生対象の「英会話教室」、「理科実験教室」を実施した。</p> <p>(vi) 大学・短大と合同のアドミッション・オフィス会議で情報交換・共有を行い、併設学校と連携した生徒募集を実施した。</p>	<p>2022 年度の募集活動から検証された課題</p> <p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動(サマースクール)の中断により低下した本校の認知度の回復 ・サマースクールの新しい企画の立案例(絵画、手工芸、料理等々) ・既存の地域貢献プログラムの充実 <p>高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入学試験の志願者増加に向けた取り組み(企画とアクション) ・北九州市内の募集強化校を設定し、学校間の関係性を高めるための情報の共有を学校訪問によって実施する。学校間での協力体制の構築を目指す ・総合学園としてのメリットを生かした PR を学院アドミッション会議で検討しながら実行していく。